64チーム白熱の試合

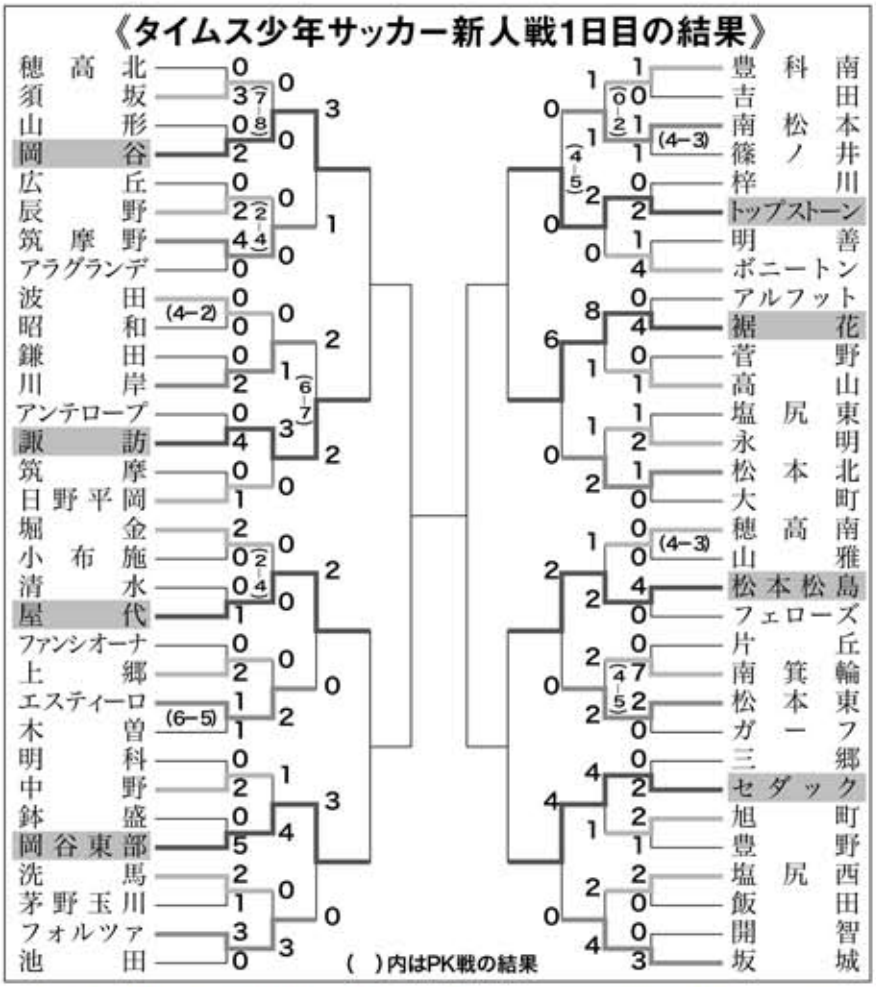
タイムス少年サッカー新人戦 松島とセダック8強

第二十三回市民タイムス少年サッカー新人戦・カガミカップ（市民タイムス、松本市サッカースポーツ少年団連合会主催、カガミグループ協賛）が九日、松本市のアルウィンで開幕した。小学校五年生以下で編成する64チームが参加し、「秋の王座」を懸けて熱い勝負を繰り広げている。

（肥後健一）

熱戦を繰り広げる選手たち（明善―ボニートン）

《タイムス少年サッカー新人戦1日目の結果》



初日は1―3回戦56試合が行われ、8強が出そろった。中信勢は松本松島、セダックの2チームのみ。残りは岡谷（岡谷市）と岡谷東部（同）、諏訪（諏訪市）、トップストーン（上伊那郡宮田村）の南信勢と、屋代（千曲市）と裾花（長野市）が勝ち上がった。

チームが発足して日が浅い分、連係不足は否めなかったが、選手たちは伸び伸びとボールを追った。巧みなドリブルや複数の選手が連動した攻撃も見られ、気持ちが前面に出たプレーにはピッチサイドの保護者らから温かい声援が飛んだ。

試合に先立ち、アルウィンで開会式があった。松本蟻ケ崎高校吹奏楽部の演奏が雰囲気を盛り上げる中、全チームが堂々と行進した。大会長の新保力市民タイムス社長は「多くのことを学んで成長してほしい」とエールを送り、松本松島の高松大輔主将が「最後まであきらめずにゴールを目指す」と熱戦のスタートを宣言した。

最終日は十六日で、アルウィンと隣接する芝生グラウンドで準々決勝以上の8試合がある。

アルウィンでの開会式に臨む選手たち